

令和3年 飯田市教育委員会 11月定例会会議録

令和3年11月11日（木） 午後3時開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	湯本 正芳
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	馬場 保之
文化財施設整備担当専門幹	関島 隆夫
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	久保敷 武康
教育支援指導主事（統括）	三尾 利彦
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） ただいまより令和3年飯田市教育委員会11月定例会を開会したいと思います。本日もよろしくお願ひいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程の第2、会期の決定、本日の定例会の会期を1日とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員、北澤正光教育長職務代理者によろしくお願ひいたします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、10月定例会の会議録ご確認いただきましたでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認ということでよろしくお願ひします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、お配りした11月定例会のレジュメにしたがいながら、ご報告をさせていただきますと思います。

まず、先月から先週末11月7日までの、菱田春草没後110年特別展を無事終えることができました。教育委員の皆さんにも初日には式典にご参加いただき、また、鑑賞いただきまして誠にありがとうございました。

入場者数としては、11,490人、小中学校の児童生徒の来館数が1,900人ということで、2カ月前、開催も危ぶまれた中で無事開催でき、しかも大勢の市民の皆様、また、児童生徒の皆さんに鑑賞していただき本当に良かったと思います。

また、市役所の職員もそうですし、本当に多くの皆さんの支え、さらには「春草を愛する会」など様々な春草に関わる皆さんのご協力を得て、無事終えることができて本当に良かったと思います。

美博の学芸員の皆さんに「どうでしたか」なんていう話を聞くんですが、今年、小・中学生向けに「ジュニア鑑賞ガイドブック」というのを改めて制作をしました。これを配布したわけなんですけれども、しっかり読み込んできている児童生徒がたくさんいて、学芸員の説明を真剣に聞いてメモを取る姿もあって、「非常に良い学びの機会になった」という報告を受けています。

今、鑑賞の作文コンクールを行っています。11月末までの締切りですが、こちらのほうもしっかりと応募していただきながら、また、子供たちの感想をまとめ、また広めていくという事で、この機会をこれで終わりにせずに、引き続いてこの菱田春草の業績や、位置付けというのを継続させていきたいと思っています。

2番目、飯伊市町村教育委員会連絡協議会の秋季研修会、10月20日に行われましたけれどもご苦労様でした。

今年は飯田市が幹事自治体ということで行いましたが、オンラインでつないでの開催自体は、秋季研修会は初めてだったんです。ぜひ、皆様方のご意見もまたいただければと思っています。

実は、今週の月曜日に飯伊市町村の教育委員会連絡協議会、教育長と教育長職務代理者が集まる会では反省会を行い、各教育委員会からもいろんな意見が出ています。ぜひ、皆さん方の忌憚のないご意見もいただきたいし、また、それを来年度反映できればと思っておりますのでよろしくお願いします。

3番目、飯田市の外国語教育とALTの現状ということで、今日はALTの先生方、いわゆるアシスタント・ランゲージ・ティーチャー、外国籍の先生方がどんなふうな活動をしているのか、「実は」っていったら言葉は違うかもしれませんが、飯田市は英語、外国語教育には非常に力を入れてやっています。その仕組みをちょっと委員の皆さんにもご理解いただきたいということで、少し今日、書かせていただきました。

1番目にありますように、飯田市の外国語教育の狙いというか、願いというか、ビジョンとしては、『小さな世界都市』飯田の創造を担う児童生徒の育成』ということを掲げています。

そして、1つ大きな戦力がアシスタント・ランゲージ・ティーチャー、外国籍の先生方をどう活用していくかということなんですけれども、実は、多くの自治体は自分の自治体で採

用するというよりは企業からの派遣をうけてやっております。1番多いのは「JET」というプログラムで、海外から来た人を国が一括管理しながら「JET」から派遣をされるということで、このプログラムを使っている自治体が1番多いんじゃないかなというふうに思います。もう1つのスタイルとしては、派遣会社から独自で派遣してもらうというスタイルもあります。

その中で、6年前までは飯田市もJETプログラムと派遣とまた飯田市独自の雇用という形でハイブリッドな対応をしてたんですけども、どういう形が良いのかって模索していく中で、今いる10名のALTの皆さんは、すべて飯田市の教育委員会が雇用しているというもので、10名の雇用っていうのは非常に珍しい取り組みだと思っています。

メリット・デメリットがあって、1番大きくは、自治体で採用しなきゃいけないので、募集をしたときに飯田市独自で採用できるのかっていう課題が当初あったんですけども、6年前、5年前、欠員補充してどれくらい来るのかなと心配もありましたが、飯田市への応募が非常に多いということがわかってきました。

それは何でかっていうと、今働いているALTの評判が非常に良くて、飯田は住みやすいし教育がとても良いついていう、今勤めている皆さんの評判も良かったので、そういう下地があって、飯田市の募集をすると、定員割れということじゃなくて必ず複数の応募があるということが見えてきた点です。

また、もう1つのリスクとしては、管理がこちらになるので研修をしたりとか、また、非違行為がないように、ちゃんと先生としての立ち位置を飯田市が指導していかなくちゃいけないんですけども、こういった点、普通の派遣とかは企業がしてくれるという形になるので、来た人を使えばいいだけなんですけれども、飯田市がもしすべてのALTを自治体で雇用するという形になると、それを指導・管理していく組織体制が必要だということで、飯田市は3年前から外国語の指導主事、現場で英語をしっかりと教えている先生になりますが、現在は塩澤指導主事です。指導主事を採用することで、指導を飯田市がやっていくということで、自治体雇用のデメリットを打ち消した上で、メリットとしては、授業だけでなく、学校生活やさらには地域活動にも活躍してもらうということが可能になります。つまり派遣のALTが来ていると、「運動会で何かやってくれ」とかいうのは、契約上できないということになる。指導方法もかなり厳密にやっているという現状があるので、そういった意味では、飯田市の方向性に対して飯田市の指導主事がマネジメントできるということが多くて、ということで飯田市は今、10名のALTがいるわけですけども、直接雇用をして28校に派遣しているという特色があります。

その中でも、今年度から小中連携・一貫ということの視点で、中学校区単位で小学校と中学校、両方に勤務するという体制を整えました。

今、学校からも、小学校からともに学び様子を知っているALTが中学校に来ているので安心だということで好評をいただいています。この体制が維持できるのが良いかなということで、ALTの直接雇用から始まって、外国語の指導主事を入れて3年目、少し整いつつあるものもあるかなとそんなふうに思っています。

せっかくなので改めてですけども、今、新しい学習指導要領になって小学校は三・四年生が外国語の活動を週に1回。五・六年生が教科としての外国語の授業ですね。活動じゃなくて外国語の言語の学習として週に2回しています。

また、中学校は今年度から新しい学習指導要領が実施されていて、実際のコミュニケーション、4機能と言われますけれども、読み書きだけでなく話す・聞くこういったところもしっかりと学ぶような学習スタイルに変わってきています。

そうしたときにやっぱり日本人の先生だけじゃなくて、外国の母国語をしっかりと聞けるというのはとても大きなことだなと思います。そして、言語だけではなくて多様な文化を授業では教えたりとか、学校生活の中でのやり取りってということで、外国語の教育で求められるコミュニケーション能力を育む先生としての存在っていうのが、しっかりと位置付けられ始めたなあとそんなふうに思っています。

私が「とても良いな」とっていうふうに思う瞬間が先ほど言いましたように、運動会でスターターをやるALTの先生が多いんです。ちょっと余談なんですけど、「CHAGE & ASKA」の歌に「On Your Mark」っていう歌があって、私聞いたときに「On your mark」ってよく知らなかったの、何なんだろうって思ってたんですが、英語勉強してっていうかオリンピックを見ると「On your mark」って言って「ああっ」、「位置について」っていうことがようやく大人になってっていうか、20歳過ぎ、オリンピックを見ているときにわかったんですが、今の少なくとも飯田市の小中学生で「On your mark」意味がわからない生徒はほとんどいないんじゃないかなと、「On your mark, ready」、「パーン」とか、あれを見ているととても良い光景かなと思うし、それも含めて国際理解を授業以外でも学校教育活動の中にできるって思っています。

今日、なぜ英語かっていうところでいくと、5番目の「飯田イングリッシュデイ」というものが開催され、写真つきでもご報告させていただきたいんですが、10月16日小学校五・六年生を対象に、11月6日小学校三・四年生を対象に、もっと学びたいっていう学校の授業以外に、飯田市の子供たちが集まって、半日、英語のみで過ごしてもらおうという企画です。

私が素晴らしいなと思ったのは、10人のALTの先生方が本当に積極的に子供たちに英語を楽しく教えている。これは授業ではその名の通り「アシスタント・ランゲージ・ティーチャー」なのでアシスタント役に徹しなきゃいけない部分があるんですけども、ここはまさに自分が主役となったティーチング、教えをしていてとても楽しい雰囲気だなんて思いました。

両日とも41人、39人と定員の30名を上回る申し込みがあつて、最初は定員を超えたら抽選をと考えていたようですが、何とか全員に参加してもらおうと抽選はしないことにしたようです。予定数より多く来た子供たちに対しても、本当に充実した時間が過ごせたと感じました。

これも派遣やそういった仕組みではできなくて、まさに飯田を愛する先生だからこそ、飯田の子供たちにこういった休日にもできるんだなとそんなふうに思いました。

子供たちの評判もすごく良かったんですけども、送り迎えをする保護者からも聞こえることは、「もっともっと学ばしたい」という親がいるんだなあと。そうしたときに「このような機会があつてとってもうれしい」とか、「中学校へいっても、中学校ないんですか」というようなところがあつて、来年度もさらに発展させて継続させていただきたいというふうに考えているということで、今後も飯田市の外国語教育の中で、このALTの活用って非常に重要なポイントになってくるなあと、改めてこの「イングリッシュデイ」を開催してみたい思いました。

今後に向けてということなんですが、とは言いつつ、中学校に行くとその教科の好き、嫌いというのを調査するわけですけども、「英語が好き」という生徒が小学生より減ってきてしまいます。やっぱり早期に指導するっていうことは、英語嫌いをつくる可能性も当然出てくるわけで、そういった意味ではこの「英語が好き」という児童生徒をどれほど高められ続けられるのかっていうのはとっても大事だなと思います。

また、LG教育、シンク・グローバル、アクト・ローカル、大きな視点で考えながら地元で行動をするというLG飯田教育の視点で、様々な英語活動が地域でも始まっています。

例えば、象徴的なのは、座光寺の麻績の桜のガイドを小学生でも英語でやってみるというような活動があります。そういった実践的な活動が地域にも根付いていくことによって、まさに目標である小さな世界都市に向けた教育活動推進していきたいと思っています。

最後になりますけれども、明日、遠山地区の学校訪問ですけども、ALTの授業を見れると良いなと思います。また、同行した事務職員に「感想を寄せてよ」と言ったら、「教育委員の皆さんのあの短時間で細かなところまでチェックしてご発言されている様子に感銘し

ました」というのをいただきました。これは事務職員に留まらず私自身もいつも「ああ、こういう視点で見えていただいているな」勉強させていただいております。お忙しいところ、本当に学校訪問、いつもありがとうございます。明日もよろしくお願いします。

以上で私からの教育長報告事項を終わらせていただきたいと思います。

何かご質問等、ありますでしょうか。

よろしいですか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) また、機会があればお願いします。

日程第6 議案審議(1件)

○教育長(代田昭久) それでは日程第6、議案審議。今月の議案審議は1件です。

議案第64号 令和3年度飯田市就学援助費支給対象者(要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係)の認定について

○教育長(代田昭久) 議案第64号、「令和3年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」をお願いします。

桑原課長、お願いします。

◎学校教育課長(桑原 隆) それでは資料は4ページになります。議案第64号、「令和3年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にてご認定をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○教育長(代田昭久) ただいま説明がありました。ご意見ご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは、議案第64号、承認ということでよろしくお願いいたします。

日程第7 協議事項

○教育長(代田昭久) 続きまして、日程第7、「協議事項」に移ります。

今月の協議事項、4点になります。よろしく申し上げます。

(1) 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について

○教育長（代田昭久） まず、1番、「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」、お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組につきまして、毎回定例会でこの間の状況を報告させていただいております。今日は、担当が伊賀良の学校運営協議会に行っており出られませんので、私のほうから経過報告ということでさせていただきます。

9月30日から2回目の学校運営協議会の委員の皆様との意見交換ということで始まっております。学校ごと一学期に出た意見が違いますので、各学校と事前に意見交換のテーマを打ち合わせて2回目の意見交換を実施しているという状況でございます。

表にまとめてあるものが、二学期の意見交換のテーマとその場で出た意見のほんの一部なんですけれども、主なところを記載してありますので、簡単にご紹介をさせていただきます。

9月30日は緑ヶ丘中学校でした。テーマについては、ご覧の1点のテーマに絞ってございます。意見とすると、「人数が減ってきていて部活や委員会など組織の維持が難しくなっている」ということ。あるいは、「日常的に家庭や学校で、生徒自身が考えたり体験することが大事だね」ということが改めて意見として出たようでございます。

10月11日は龍江小学校でした。学校の魅力づくり、地域の参加ということ。それから、龍江の住民が参加する地区懇談会の持ち方について、それから龍江4区の通学区の問題ということで龍江についてはこれが1つの課題というふうに捉えて、この3点のテーマでご意見を出していただきました。

150周年の式典が近いということで、「そんなことをきっかけに地域の人たちの気持ちを伝える機会を持ったらどうか」。あるいは、「地区の小さい単位で話し合っていくということも必要じゃないか」という意見。それから4区の通学区については、「どういう団体に議論をしていくかっていうことも含めて、ここについては引き続き協議をしていこう」という方向が確認されたのかなあというふうに思います。

10月11日はもう1つ、上久堅小学校で行っております。複式学級化と地域として学校を支える方策について、それから小小連携交流会・合同行事の良さや課題について、それから竜東中の校区内での学校づくり・地域づくりということの3点でご意見を伺っております。

推計値ですけれども令和7年度から一・二年生が複式学級になるということで、1つは「ボ

ランティア組織として整備をしていく必要がある」ということ。それから『ふるさと夢学校』という農業体験を小学校3校でやる。これが特色であろう」ということ。それから「PTAとか保育園の保護者、地域へどう広めていくかっていうことを考えていくか」というご意見でございました。

10月20日、座光寺小学校です。1点目は現状について、それからもう1点目は、リニア中央新幹線に隣接する地域の可能性ということでご意見を伺っております。

「公民館で地域の行事に参加すれば、将来帰って来たいと思うような経験ができると思う」。また、「大人もぜひ地区のいろんな行事に参加することでつながって行って、子供たちにもいろいろと伝えていけるんじゃないか」というようなご意見でございました。

6ページにまいります。25日は鼎小・中は、これは小学校・中学校で1つの学校運営協議会でございますので、この小中学校の利点を生かした9年間の教育、そのための教育環境ということでご意見を聞いております。

「行政として方向性を出してもらいたい」というようなご意見。それから「校舎が現実的に古くなっていくってことなので、どう対応をしていくかっていうのが議論になっていくと思う」といったご意見がございます。

同じく25日は、千栄小も行っております。複式学級とか教員配当基準などの状況確認しております。令和5年度から一・二年生が複式学級ということで、「これからの教育について、専門家の考え方が聞きたい」とか「ボランティアが学校を守っていく、それから地域に広がっていくということが大事じゃないかな」というようなご意見もございました。

25日はもう1つ、千代小学校にも行っております。ここも複式学級とか教員配当基準の状況の確認と、そういった中で地域としてどうやって学校を支えていこうか、地域への情報発信はどうしようかといったご意見を聞いております。

千代小については、令和4度から一・二年生が複式学級になる見込みということで、「これからは地域も一緒に、まちづくり委員会も加わってもらって、一緒に考えていくことが必要じゃないかな」といったようなご意見でございました。

28日は山本小学校でございます。山本小の特色、魅力ある学校づくりについて、それから小中、保育園の保護者も含めて、地区の住民の意見を聞ける場の持ち方についてということでございました。「PTAに対しアンケートを取ったらどうか」というようなご意見が出たのと、あと「統廃合の問題については、学校運営協議会で扱う課題ではない」というようなご意見も出ております。

10月まではこのような状況でございまして、残る16の学校運営協議会でございますが、

11月・12月までにかけて意見交換を進めていく予定でございます。

今年度いただいた意見をもとに今後の検討の進め方資料としてまとめて、令和4年度に向けて進めていくということで、また研究会を開催したり、この場でもご協議などいただいて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま、説明がありました、ご意見ご質問等ありますでしょうか。

少し、私のほうで補足させていただきます。

今、第2回目のこのあり方の検討会、私自身も8割の学校には行って議論に参加させていただいてありますが、率直な感想としては時間が短くなっちゃう、逆に言うと意見が、いろいろな意見が出るなということをおもっています。それもやはり今のフェーズはいろいろな意見が出ました。じゃあ来年度はどういうふうな形でこの協議をどんなメンバーとしていったら良いのかってところでもいろいろな意見が出るので、そういった意味では活発な議論をいただいて、時々出るのは「これを全体も含めて1時間でやるっていう設定自体がおかしいんじゃないか」っていう厳しいご指摘をいただくくらい、逆に言うといろいろな意見をいただいているなと思ひています。

いずれにしろ、教育委員会としては、今年度はとにかく飯田市の状況をわかっただきたい。その状況は少子化の現状と施設の老朽化、この2つを理解していただきたいということ、大分わかっただいたかなっていうふうにおもっています。

年内、12月までには資料を全保護者に配布する予定でおりますので、そういった形で、その現状を理解していただくってところは一歩ずつ進んでいるかな、そんな実感値はあります。

いかがでしょうか。

よろしいですか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） 今年度の大きな取組ですので、適宜ご報告をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

（2）令和3年度全国学力・学習状況調査 飯田市の「学力」結果報告について

○教育長（代田昭久） 続きまして、「令和3年度全国学力・学習状況調査 飯田市の「学力」結果報告について」、お願ひいたします。

湯本専門幹、お願ひします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） それでは、お願いいたします。

資料No.2、別冊になっておりますのでお願いいたします。

以前に、速報値を協議会でお伝えしましたが、今回この「学力」結果がまとまりましたので、ご説明させていただきたいと思えます。

それでは、冊子をお開きください。まず3ページですけれども、3ページには本調査、5月に行われたものですけれども、その内容を載せてございます。

続きまして4ページですけれども、4ページには推進日程と今後の取組の計画が掲載されております。その計画、本日ですけれども、11月11日に教育委員会の定例会へ説明ということで、これが本日の計画に基づいた説明になります。

それから、5ページをご覧ください。5ページは小学校六年生の結果になります。

ここにあるように、国語・算数ともに全国の平均正答率と同水準となっております。

6ページをご覧ください。6ページは中学校三年生の結果です。

国語は全国の平均正答率と同水準ですけれども、数学が全国の平均正答率より若干下回っているという形になります。

続きまして、7ページです。飯田市では、小学校六年の学力が中学校で伸ばしてきてないという課題がこの数年間ずっと続いておりました。今年度はその傾向が改善されてきています。

表1をご覧ください。国語は小学校六年のときと中学校三年のときの学力がともに全国平均並みで小学校六年生のときの学力が順調に伸びていることがわかります。一昨年度はマイナス5ポイントという中学校で十分に伸ばしてきてない数字が出ていましたが、今年度は改善されてきております。

数学では、小六・中三ともに全国平均を若干下回っていますが、中三では全国との差が縮まり2ポイント改善されています。一昨年度はマイナス4ポイントでしたので、そこから見ますと一昨年度から比べて見ますと、6ポイント改善されたことになります。

平均で5～6ポイント改善されるというのは大変大きな結果になりますので、その背景として何があるのかを考えてみました。

分析委員のほうでも考えたんですけれども、昨年度は11月から1月の間なんですけれども、放課後の部活動をオフ期間としました。その間の生徒の意識を調査したところ、「家庭学習をしっかりとできた」と答えた生徒が50%、「授業に集中できた」と答えた生徒が41%おりました。平日の家庭学習を2時間以上行っている生徒の割合も、今まで低かったのが、全国平均にだんだん近づいてきていることもあり、この期間をプラスに捉えた生徒が多かったこ

とが原因の1つだというように分析しています。

続いて8ページ・9ページをご覧ください。小学校の国語と算数の問題別正答率の全国との比較になります。赤く塗られているところが全国より低い値となっていて、課題が見られるところであります。

この課題をどのように改善していくかを校長会から推薦された問題分析委員を中心に、改善の方法を具体的に整理したものが次のページからになります。

10ページ・11ページをご覧ください。ここに小学校国語の改善の方向が示してあります。

簡単にかいつまんで説明しますと、小学校国語では、文章を書くときに文の構成を考えてから書くことに課題があり、どのように指導を改善していけばいいかということを提案してあります。そのことがどういうふうに文章を、しっかり構成を考えて書いていくためにはこういう手立てをしていけば良いという授業改善の方法をそこに記してあります。

11ページのほうの「全体を通して」のところなんですけれども、国語のところでは実は全国とで1番平均との差があったのは、国語の漢字の書き取りがちょっと課題が見られました。ですので、その学習活動全体を通じて、漢字の定着についてどういうふうにしていったらいいかというところを述べてあります。

続きまして12ページ・13ページをご覧ください。ここには小学校の算数の課題と改善の方向が書いてあります。

1にあるように、問題場面を想像して水量の関係を捉えて立式することに課題があります。具体的に示してあるところには、8人に4リットルのジュースを分ける場面で「 $8 \div 4$ 」と立式した児童が4割以上おります。全国の正答率との差が大きくなって、算数の中でも一番課題のある問題になっています。絵や図を使って考える等、改善の方向を示してはいますが、具体的にやっぱり文章から場面を想定しながら立式していくということ、そこに課題があるので、そういった場면을授業の中でも示し意識づけていくことが提案されています。

全体を通しましては、記述式の問題の正答率は全国と比べて高い傾向があります。小学校で友達と違う考え方の良さを授業の中で扱いながら積み重ねていくことで、それが生きてきている。だからこれも今後もそういったことを続けていくということが述べてあります。

続きまして、14ページ・15ページです。ここは中学校の問題の正答率の全国との比較です。先ほど小学校のものと同じで赤いところが課題が見られるというようになっております。

16ページ・17ページ、ここは中学校の国語の指導改善の方向であります。

中学校の国語で1番の課題となるのは、文章の中から根拠となる叙述を見つけ、作者の考えを読み取り、さらに叙述を引用して自分の考えを書くという複数の条件を満たして書くこ

とに課題がありました。全国との差を見てもらうとわかるんですけども、8ポイントの差が付いております。

根拠となる叙述を見つげたり自分の考えを書いたりするといった1つ1つの条件であれば書くことができる生徒が多いのですけれども、こういった複数の条件になるとなかなか完全な正答までにはいかないというようなことがあります。

ですので、どのようにその複数の条件を結びつけて考えていくことができるようになるかということ、その17ページの具体的な指導改善の方向のところに書いてあります。

18ページ・19ページは中学校の数学に対する改善の方向になります。

これも1番最初の1のところに示してありますけれども、4の倍数になることを説明するためには、どのように式を変形すれば良いかを見通しをもって追求することが求められる問題であります。

その見通しがなかなかやっぱり持っていないところが課題であるということを取り上げました。普段の授業の中で、このような解答を取り入れていくことの大切さに触れております。

全体的には、小学校のときに正答率の高かった記述式の問題の無回答率が、全国よりも高い傾向にあるといえます。何を説明すれば良いのか見通しをもって考える。そういったことを見通しをもって考えて行く授業をしていくことの授業改善が求められるということ全体のところには書いてあります。

以上簡単ではありますが、そういったそれぞれの教科についての分析をここに載せてあります。

飯田市の結果について、以上のように分析委員を中心に分析してきました。

この結果を各校のほうに下ろすとともに、今月の下旬には各校の研究主任に集まってもらいまして、自校の研究から課題と成果を分析し、来年度の授業改善にどのように生かしているか考え、各校の情報を共有する機会を設定していきます。各校の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、課題を改善するような授業改善が進むことが望まれます。

続きまして、20ページからですけども、ここからは児童・生徒の質問紙、それから学校質問紙から見える飯田市の傾向を分析してあります。

これも簡単にちょっと触れさせていただきます。

質問1の自己肯定感については、小学校・中学校ともに全国平均よりも低くなっています。子供たちの良さを認め褒めるということを地域とも協力しながら、さらに進めて行く必要があるのかなと思います。

質問4の人が困っているときに助けるかどうか等の自己有用感につきましては、上昇傾向にあり、人の役に立つ自分を意識していることがわかりますので、さらに伸ばしていきたいとことかなと思います。

質問6の将来の夢や目標を持っているかの質問に対しては減少傾向にありまして、こちらはキャリア教育と結びつけて、これ改善していくことが求められております。

22ページをお開きください。ここからは協調性と自己と他者の関係についての質問項目になっています。

学習指導要領が変わったことによって、本年度から設けられた項目になりますので、一昨年度、その前の年との比較はこれはない項目になっております。

質問7・8・9の自分の言葉で表したり、違う意見について考えたり、友達と協力することについては、おおよそ全国と同じような傾向があると言えます。

質問12の「学校に行くのが楽しいか」を問う質問に関しましては、小中学校ともに80%に留まっております。全国と比較しても若干低くなっていますので課題が見られます。やっぱり学校行くのが楽しいと思えるような授業づくりというのを、もう一度見直していく必要があるかなと思います。

続きまして24ページからは授業改善に関わる質問項目になっています。質問1、「国語の勉強は好きですか」、それから質問3、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の項目で、中学生の割合が劇的に伸びていることがわかります。本年度、令和3年度のところの値が非常に伸びています。ここから中学校の授業改善が進んでいること、それから中学校の学力の伸び悩みが解消されてきたことが考えられます。

それから質問6の「課題解決に向けて、自分で考え、取り組みましたか」という児童生徒に対しての質問は、中学生が非常に高い値を示しているんですけども、質問7の教師に聞いたところ、同じ質問では、中学生が低くなっています。これは教員と生徒の間にギャップが見られるわけですけども、見方によっては教員のほうは、まだまだ中学生に伸びしろがあるというふうに考えて、さらにそういった指導をしているのかなと捉えております。

続きまして26ページからは「対話的な学び」「深い学び」に向けた授業改善についての項目になります。

質問の「言語活動のところに学校全体で取り組んでいますか」という質問項目に対しては、小中ともに100%取り組んでいるという結果になっております。授業改善を意識して取り組んでいることがわかるかなと思います。

めくっていただきまして28ページです。質問7ですけども、「授業の中で、ねらいをは

つきりさせ、振り返りを行っていますか」という質問ですけれども、小中ともに肯定的な回答が100%になっております。「学力向上『結い』プラン」、飯田市の行っている『『結い』プラン』ですけれども、それが浸透して授業改善が進んでいるかなということがわかります。

それからICTの利活用を問う質問9番・10番ですけれども、全国平均を大きく上回ってまいりまして、着実にICT教育が推進されていることがわかります。

また、探求的な学びにICT機器を使用しているかを問う質問11ですけれども、月1回未満の割合が全国より10ポイント以上低くなっています。ですから、ほとんど使っていない割合が非常に全国に比べて低くなっていますので、こちらは探求的な学びにもしっかり使用しているということが見えるかなというふうに思います。

続きまして、30ページ、家庭学習についてです。

質問1の家庭学習の時間についてですけれども、先ほどもちょっと触れましたけれども、2時間以上学習していると答えている中学生の割合が大変増えてきているかなということがわかります。これも中学生の学力が伸びてきていることと関連があると考えます。

それから質問3の「自分で計画を立てて学習していますか」の項目は、以前から飯田市は実は課題が見られるんですけども、改善傾向であるんですけども、さらに自ら考えて取り組む家庭学習を目指して工夫していく必要があるかなと捉えております。

32ページです。これは小中連携・一貫教育についての質問です。

質問1・2より昨年度はコロナ禍の影響で集まって研究や情報共有の機会が減ってしまいましたけれども、それでも始まってやっぱり10年経過しているという小中連携・一貫教育の経過がありますので、全国よりは連携が取れているという結果になっています。

33ページ、コミュニティスクールに関してです。

質問1では、「地域の行事に参加していますか」という項目に関しては、全国に比べて高い参加率を維持していますけれども、まだまだ伸びる余地はあるかなというふうに思います。

質問2のほうの「社会をよくするために考えることがあるか」ということは、全国と比べても同じかあるいはちょっと高めには出ているんですけども、まだまだ40%、50%くらいですので、伸びる余地があるかと思っております。

続いて34ページ、コミュニティスクールに対する教職員の意識になります。

質問の3・4では、コロナ禍の影響で例年通りの地域の人の学校行事への参加という面では、ちょっと低めの数字が出てるかなというふうに思います。ただし、質問5の学校教育の水準向上に向けては、すべての学校で効果があったと回答していますので、「飯田コミュニティスクール」の有効性を各学校で感じていることがわかるかなと思います。

35 ページのほうに、今述べてきたことがまとめて書いてあります。

(3) の家庭学習に関して、1 番下の丸に書きましたけれども、学力の上位層をさらに伸ばすことが、もう一つの課題としてあったわけですが、本年度は、まあまあ解消傾向かなというふうに思います。しかし、さらに上位層を伸ばすためには、定着を図るための家庭学習の改善が望まれるとともに、授業と関連付けた家庭学習のあり方や、ICT 機器とも関連付けて、やはり自ら取り組む家庭学習を目指していくことが大事なかなというふうに思います。

非常に情報量の多いものを短い時間の中で説明させていただきましたけれども、こんな形で今年度の学力・学習状況調査の報告を分析させていただきましたので、これを次回の来週あります校長会で校長先生方に下ろして、各学校のほうへ下ろして説明していくという形を取りたいと思います。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、本当にボリュームの多い説明になりましたけれども、ご意見ご質問等あればお願いします。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 事前に送っていただいたので、丁寧に読んでまいりました。それで非常に膨大な資料なのに本当に分析をきちっとしていただいて、今まで途中経過も教えていただいていたのですけれど、また今回このようなきちっとまとめをしていただいて、非常によくわかるものにしていただきました。

結論的なことを先に言うてしまうのですが、分析が終わりではなく、これはまさにチェックですので、このチェックしたものをいかに次のアクションにつなげるかということが 1 番のポイントになるということを前提にお話をさせていただきます。例えば、7 ページのところの下半分に枠囲いをしていただいて、特にその 1 番下の部分ですね。中学校について、例えば放課後部活動のオフ期間に生徒たちは、「家庭学習が充実した」とか、それから「体の調子も良く授業に集中できた」とか、そういうことがアンケート結果にも出ていた。そのことと関連付けられて改善のほうにつながった要因の 1 つになるのではないかと分析をいただいているんです。

これは、とっても大事な部分だというふうに私は思っていて、こんな傾向がさらに来年も見られるようであれば、かなり確信を持ってそれが言える部分かなと思っています。

なので、このことに直結するのですが、ちょうど今、中学生は「冬季ジブン・チャレンジ

期間」に入っていますので、このジブン・チャレンジ期間の過ごし方について、各学校で個々にどんな目標を持ってこの「ジブン・チャレンジ期間」を過ごすのかといったことを、一人一人にきちっと目標を持たせてこの期間を過ごしていくことは、とても重要なことになると思っています。

ですから、学力状況調査の結果だけでとどめしないで、今、飯田市が取り組んでいるほかのこととつなげていくし、現につながっているということを改めて思いました。

そこで質問も含めてですが、例えばタブレット端末を、自己申請でいいと思うんですけど、自己申請で家庭へ持ち帰りして、スタディサプリやキュビナみたいな自学自習ができるドリル教材をこのタブレットの中に入れて、家に持ち帰ってやるっていうことは可能なのですか。

○教育長（代田昭久） 湯本専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） キュビナに関しましてはA Iドリルですけれども、各学校、2学年まで一応入って使える状態になっています。

それから同じように、ドリルっていうのとちょっと意味が違うんですけども、教材としてシャープのインタラクティブスタディっていうものを導入しておりまして、それは全員が使えるようになっています。中にドリル的な要素を含んだ課題も含まれておりますので、それは持って帰ることができるようになっていまして、実際に持ち帰りが始まっている学校の多くでは、タイピング練習だけっていうところもあるんですけども、多くの学校では、そういったキュビナやインタラクティブスタディを使った学習を実際に行っています。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今この7ページの下に考察されているようなところへ、「ジブン・チャレンジ」として、一台パソコンも自分で活用して、まさに自分の家庭学習をこんなふうに改善したいといったところに結び付くような支援というか、そういうようなことを例えば校長会等を通じて流れをつくっていただくと、一見バラバラに見えている様々な取り組みが中学生の家庭学習・生活の充実といったことで修練していくと思いました。

そのことと合わせて11ページの辺からになるのですが、教科ごとの事を非常に丁寧に分析をしていただいております。今のご説明を聞くと、各学校の研究主任を集めてこの結果を共有して、自分の学校の分析と併せてどうやって改善していくか。特に課題となった部分をやっていくというご説明がありました。それをぜひ進めてくださいということなんですけど、私たちは、ちょうどこの期間、学校訪問させていただいた中で、すでに分析をされて本校の課題はこんなところであって、今こんな取り組みを始めていますと具体的な説明をしてくださった学校もあるし、ほとんどこの学調の結果には触れられないで過ぎてきている学校もあることも事実です。ぜひ今度の校長会や、それから研究主任を集めてのところでこれ

だけ綿密に、「こんな具体的な改善もできますよ」という指導の手立てまで示してもらってあるので、それぞれの学校に持ち帰ってぜひアクションにつながるようにしていただけるとありがたいなと思います。

それから、最後 29 ページのところにつながる部分で、飯田市ですっと進めてきている「学力向上『結い』プラン」の成果を今、専門幹のほうからお話いただきましたけれど、これも本当にありがたいことだなと思いますが、この「学力向上『結い』プラン」は、ただ授業の形を整えるという性格のものではなくて、この分析のところをいうと 25 ページの問いの 7 とか、27 ページの問いの 4 とか、「自ら課題を持って取り組む」というようなところにつなげていく「学力向上『結い』プラン」だと思うのです。これも学校訪問をすると、全校がかなり力を入れてこの「結いプラン」をどの教室でも実践されているところと、ちょっと弱いかなと、教育委員さん方からも、そこは切り込んで意図的にそれぞれご指摘をされていたけれど、という学校もある。毎年、教職員が入れ替わるので、「もう何年かやってきたから良いじゃないか」ではなくて、改めてこれをきちっとやっていくことが「最低限の授業の質の保証をするんだ」というところを、こうした機会にみんなで意識して進めていけると良いかなと思いました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 本当に細かく分析されていて素晴らしいなというふうに思いましたけれども、最終的には私はこういう理解力というんですかね。そういう部分は、一人一人が持っている語彙の多さだと思っています。ですので、やはり根幹は国語ではないかなって思うんです。

私、10 月からなので、学校に行って子供たちの教材の多さにびっくりしております。本当に情報機器はいるのかなと、正直思っています。あの手のものはやりたいと思ったときに自分で勝手にやって自己責任でやるのが私は筋じゃないかと個人的な意見として思っているのです。そういうものよりもやはり読書、あとで何か出てくると思いますが、本を乱読するくらい、小学校の高学年から中学校にかけては推理小説でも SF でも何でも良いんですけど、いわゆる活字を読むっていうことをしっかりしていかないと、その語彙の力っていうのはなくなっていってしまうんですね。

情報機器を使うとすべて出てきてしまうので、自分の頭の中に映像が浮かばないと思うんですよ。言葉の映像、その言葉の映像が浮かばないイコール思考能力がないっていうふうに

なってくるので、やはり時間をかけてでも英語でも日本語でも良いです。何でも良いので本を乱読するっていう習慣をいかに身につけるかっていうのが私はすごい大切なんじゃないかなというふうに思います。

それがあったのかどうか、相関があるということで中学校のところで、国語が伸びたみたいな話を先ほどさされてましたけれども、たぶんどこかで何か相関があるんだろうなというふうに思うんで、その部分っていうのが大切なんじゃないかなと。

そうしないと、その算数などの理解力なんかも出てこないし、文章問題の読解力がないみたいな話がありましたけれども、やっぱりそういうところで、ぱっと見た瞬間になんとかこう思っちゃうっていう感じになっちゃうと思うんですね。しっかり読み込めないから。それがすごくこの資料から見て感じる次第です。

それから、子供のいろんなお子さんたちの将来の夢だとか、今の自己肯定感だとか、そういう話がどこかにグラフで出ていたと思うんですけども、20 ページですね。これらは、子は親の鏡だと思うんですね。だから、やはり親子の関係っていうのが大事であって、子供だけがこの部分を伸ばしていくっていうことはあり得ないと思います。

それから、これすごい良い話だなと思ったのは、22 ページの質問8ですね。「自分と違う意見について考えるは楽しいと思いますか」、これ本当に大切なことで、日本人はどうしても単一民族でいますので、シンパシーはすごい感じやすいんですけども、エンパシーって言われる、この全然違う価値観を持っている人をいかに理解するかという、このエンパシーの力っていうのがすごく日本人は少ないので、そういうところをしっかりと伸ばしていかないと、今後、大人になったときに私たちの周りを取り巻く社会というのは、今以上に複雑に、また国際的にもなっていくと思いますので、そういったところにぜひつなげていていただければなというふうに思いました。

最後にちょっと質問なんですけど、言語活動っていうのはどういうことですか。

○教育長（代田昭久） はい、湯本専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 今、野澤委員のご指摘のように、算数・数学をやるにも当然に言語活動があって、文章でどう表現しているかをもとに考えている。どの教科も基本は言語活動をベースにしていると考えています。

ですので、やっぱり国語の力が伸びれば国語だけ伸びるかっていうと、私の経験上そういうふうには思っていないで、やっぱり国語の力が伸びるとほかの教科も伸びているなっていうことは体験的に思っている部分はあります。

すべての教科を通じて言語を通して学んでいくっていうことがありますので、そういうの

をひっくるめて言語活動と言っております。

◇教育委員（野澤稔弘） わかりました。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ここら辺の言語活動は北澤委員。

◇教育長職務代理者（北澤正光） まったく素朴に言えば、「聞く・話す・読む・書く」活動を、どれか一つに特化して、ただ読むなら読むきりっていうのではなくて4つの活動をなるべく総合的にフル活用していく活動っていうことですかね。

学校ですから、そういう環境を意図的に仕組むとか、そういう環境を整えとかということというふうに理解しています。

○教育長（代田昭久） 私が1番納得したフレーズは、「音楽で言語活動しましょう」ということなんです。例えば音楽は聴くとか何も書かなくても良いんだけど、「ショパンを聴いてあなたはどう思いましたか」という言語化するとか、それを伝える活動、そういう音楽の先生が一生懸命言語活動をやっていたので、なるほど、それは音楽に限らず、技術家庭科だって算数だってできるっていうことで、要は国語の言語活動ではなくて、学校の教育全体の言語活動っていうのがとにかく大事だって思います。

◇教育委員（野澤稔弘） すごく共感できます。それは。

◇教育長職務代理者（北澤正光） ですから、授業の中だけに言語活動があるということではなく。まさに学校生活全体に、言語活動はあるわけです。例えば子供同士の児童会の活動とか、中学校で言えば生徒会の活動とか、クラスの中の係活動とか、そういう中でも盛んに言語活動はあるわけで、その中で言語活動がより円滑に豊かに行われれば、例えば今、野澤委員さんが言われた語彙ですよ。語彙もやっぱり語彙が豊富な言語活動であれば当然一人一人の考える力や想像する力もより高まる。要するに獲得している語彙数が多ければ、少なくともものを見る視野の広さやその考える深さとか幅とかも当然広がる。要するに語彙が少ない同士で言語活動が非常に狭まった状態にいると、やっぱりそういうことも深まらないとか、育たないっていうようなことだというふうに理解しているのですが。

◇教育委員（野澤稔弘） まさに私もすごい共感するんですけど、そうなるといわゆる情報機器は邪魔なよう気がするんですね。

だから、導入は確かに慣れるっていうのはわからないではないんですけど、高校生くらいからで十分だと思うんです。

小中でそれを導入して、いろいろ気をつけて親御さんたちと学校側であーでもないこーでもないってやっている姿を見ると、それやっているより「1冊本を読んでおけば」と言

ったほうがよっぽど私はその子供に対しては素晴らしいものになるんじゃないかなと思います。

あれはやっぱり多少自我がしっかりしてきた人格を持っている人間が扱うべきものであって、子供のうちから触れていくにはちょっとよくないのかなって私は正直考えています。

やはり教材が非常に多い。その中であれもこれもというふうになってきているというところを見ると、ちょっと窮屈な感じを学校訪問させていただく中でずっと感じているので、そんなところが少しでも変わっていければなど、学校の教室の後ろにそれぞれの子供のボックスがあって、その上にファイルが並んでたりするのを見ると、自分が子どもの頃はこんなにプリントいっぱいあったかなって、そんなことをしなくてもと思ってノートを見るとノートが全然綺麗じゃないんですね。今のお子さんのノートを見ると全然まとまってない。やっぱりその辺もちょっと弊害が出てきているのかなっていうふうに感じています。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい。

来月、学習会の中で、まさにそこら辺の研究を 40 年している東原先生のご意見を聞く中で、もちろん野澤委員さんの意見もありますけれども、どんな形でそういった ICT における言語活動っていうのが進んできているのかも理解してもらおうと良いかなと、そんな時間を取っていますので、また、意見交換できると良いなと思います。

◇教育委員（野澤稔弘） わかりました。

○教育長（代田昭久） ほかにいかがでしょうか。

三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） しっかりと分析をしていただきまして、本当にありがとうございます。

拝見してよくわかりますし、またちょうど今、お話にもありましたとおり、学校訪問をさせていただいているので、このようなデータで説明いただいて学校現場がイメージで思い起こされるような、そんなところがあります。

感想ですが、24 ページのところでお話いただきました、「主体的な学び」、そして 26 ページで「対話的な学び」というところですけども、24 ページの「主体的な学び」、中学校三年生で伸びているというような話もいただいて、生徒さんで「国語の勉強好きですか」が伸びてっていうお話をいただいております。授業を見させていただいても、先生方の本当にその 3 観点といたしますか、授業の流れをきちんと示してという、西中学校で見させていただいた授業が印象に残っておりまして、私みたいなものが急に教室に入っていてもどのようなことをしているのかわかると、そういったような授業もいくつも拝見してまいりました。

そんなところで子供さんたちにとっては、本当にわかりやすい授業というものが日々展開

されている。また、先生方もそういったところへの工夫をたくさんしていただいているんだなと思います。

先ほど言った3観点、学習課題といったものの提示においても、身の回りにあるおもしろい課題を提示していて、子供たちが本当に楽しく主体的に考えられる、そんな工夫とかも見させていただきまして、これまでに見ていたものとはまた違った先生方の工夫といったものがアップしているんじゃないかなと、そんなところで「勉強がすきだよ」という子供さんがこのように伸びてきているんじゃないかなというところを感じておりました。

また、2点目、28ページのところにICTのことが質問9に出ております。こちらもたくさん見させていただいております。飯田市は全員にタブレットということで、ICTの教育に取り組んできておりますけれども、ただ活用するだけでその数値が伸びているということではなくて、先生方が有効に活用するにはどうしたら良いかといったところはかなり手を入れていただいている姿を学校訪問で見えてまいりました。

見ていて「これはいるのか」、確かにそんなところもありますし、「これはおもしろいな」というふうに思うところもありました。そんなところで先生方が子供さんたちを見ながら「これは使える」、「これは要らない」、そんなところも日々研究していただいているんだなということで、良いツールとしての使い方を模索していただいているなというふうに思います。ただICTを使っているっていうこういうデータだけではなくて、その内容もきちんと見ていただいているなというところを感じておりました。

そして、最後のところ3点目、7ページのところになります。枠の中でポイントが伸びてというその上から四角の中の上から2つ目のところ、お話いただきまして、「ポイントがかなり伸びたんですよ」というお話だったかと思います。そのときがちょうど11月から1月の部活動のオフ期間ということで、今いう「ジブン・チャレンジ期間」というんでしょうか。部活動のオフ期間というところで、勉強がしっかりできたっていうようなそういったアンケート調査と比較するとそういったものの効果もあったかもしれないという分析もありました。

本当に様々な子供たちの背景から分析していただいているということで、また、ぜひこういったものを先ほど職務代理者のほうからもありましたけれども、すべての先生が共有されて、ご自身がやっていらっしゃるということがこういった形で評価ができるといったところで、また、良かった・悪かったというところで役立てていただければなということ強く感じました。

ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

上河内委員、お願いいたします。

◇教育委員（上河内陽子） まず私が2年前にこういった学力テストの結果の報告を受けたときに、中学生が本当に伸びてないってところにショックを受けたんですが、今回、中学生がぐっと伸びたというところが、課題を見据えて、先生方が授業改善して下さってその成果なんだろうなということで、大変ありがたくうれしく思っております。

それには、部活動のオフ期間が関係しているのではないかという分析は、本当に重要な視点だと思います。結構、大きな変革がこの教育委員会でも、この1～2年で「うわーっ」とあったと思うんですが、その中の1つが部活動の改革だったかと思いますが、それがデータとして誰にも見えやすい形で出始めているというのは、とても参考にするべきところであるし、保護者あるいは教職員の皆さん、それから生徒の皆さんにとってもわかりやすい成果かと思えます。

周りの中学生なんか見ているのは、やはりほかの市町村のお子さんはバレー部に入っていると、ものすごい忙しくて、土日も社会体育の関係で行ったりして「もうへとへとになっていて勉強もできない」っていうような声を聞いたりしました。

そんな中で、飯田市の子供たち変わってきているのかな。中学生の時代っていうものが、ちょっと前は本当に忙しくて中学生とどこか、例えば美術館に連れて行こうにも、「土日はもう部活だし行けない」なんていうふうにあったのが、春草展もうちも行きましたし、そういった時間がだんだんできて、「ジブン・チャレンジ」というところで広がっていけると本当に良いんじゃないかなというふうに思いました。

先ほどのICT機器についてですけれども、それもまた本当に大きな変革のときで、今、いろいろな課題もあったり、そして良い点もあったりということでは私たちも研究したりとか、事実を知っていくっていう必要がとつてもある時期だと思います。それで気がついたのが28ページを見てみると、「電子黒板などのICTを活用した授業をどの程度行いましたか」というのが、飯田市はとつても多かったということで、電子黒板率が高かったのかなっていうふうにちょっと思いました。

学校訪問をしていて、電子黒板について感じたのは、やっぱり電子黒板もあって黒板もあってっていうような感じだと、先生方が目当てとかを電子黒板で出しちゃうとぱっと消えてしまって、結局授業の最中にその学習問題・学習課題とか、消えちゃってわからなかった。だから最後になったら「あれ、消えてた」っていうようなことがあるというような話を聞いたりしましたので、そういった点でもやはりどういう使い方をするのが最も効果が良いのか、無駄に使わないで効率的に使える方法っていうものを、また、子供にとって良い方法って

うものを、まさに今、先生方が働き方改革と言われつつもたくさん残業をしながらも考えてくれているんじゃないかと思しますので、私たちもそういった面で学習会で勉強させていただきながら、こういった点も考えていけたらと思いました。

また、漢字の書き取りに問題があったというのも、実際にノートに自分の手で書くということもとても大事だということ現れたと思しますので、そういった点も見据えながら、また課題を皆さんと共有し勉強させていただきたいと思いました。

最後に20ページ、「自分には良いところがあると思いますか」という自己肯定感の問題で、これは小学生に特に傾向が現れていて、全国も、長野県も、飯田市もみんなどんどん下がっているというのは、やはりこれはコロナ禍の社会の世相が反映されて、これは子供だけの問題ではなく、もしかしたら親たちも同じような状況になっているんじゃないかなというふうに考えます。ぜひ明るい未来をみんな希望を持って教育をしていけるような、そういった気持ちでまた取り組んでいけたら子供たちにも伝わっていくのかなと思いました。

以上です。ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

最後に専門幹のほうから何かありますか。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） たくさんのご指摘ありがとうございました。

今、いただいたご意見をしっかりと校長会を通じて各学校のほうに下ろしていきたいというふうに思しますので、とにかくやりっ放しにならないように、この結果を見てどういうふうに子供に対していくかっていうことはとても大事だというふうに思っていますので、その辺はまたしっかり計画立てていきたいと思っています。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（3）長期欠席児童生徒の状況について

○教育長（代田昭久） それでは続きまして、長期欠席児童生徒の状況について、お願いします。

三尾統括、お願いします。

◎教育支援指導主事（三尾利彦） それでは資料No.3をご覧ください。

1ページ目ですけれども、昨年、令和2年度の不登校、欠席児童生徒の調査結果がこの10月13日に県から発表されていますので、その公開・公表資料をまとめさせていただきました。

一番上の四角の枠で囲ってあるところ、これは県のものですけれども、この3つを読ませ

ていただくと、この丸の1つ目、小・中学校で全国と同様に過去最大の不登校になっているということが書いてございます。この飯田でもそのような形になっておりました。

丸の3つ目ですが、この増加した背景として、児童生徒の休養の必要性等の浸透、コロナ禍における生活環境の変化による登校する意欲が湧きにくい状況があったことなどが考えられる。そんなような形で県では考察している状況です。

続くこのページから4ページ目までは、こういった県の公開資料をそのまま載せさせていただいて、その後の飯田市の長期欠席を考察にする上で参考にさせていただきました。

それでは5ページをお開きください。

最初の表、これが長野県の令和2年度のまとめになるものであります。国と県のものが入ったので、比較ができるというものです。

表1ですけれども、これが過去10年間の不登校のデータであります。長野県では29年度から急に増加をはじめ、飯田市はその2年遅れの令和元年から急な増加がはじまります。

表2の右側にある四角い別の表を見ていただきますと、飯田市の不登校在籍比は30年度から年々県の値に近づいてきている状況にあります。

表3は不登校の児童生徒の欠席日数を表したものです。1番右下側の小中総計を見ていただきますと、令和2年度90日以上欠席をした生徒が62名と、不登校全体の34.1%となっています。県ではこれが54.9%であり、まったく出席できなかった児童生徒も1.6%で県の4.2%より低い値となっています。

また、表4と表5を見ていただきますと、前年度の長期欠席をした児童生徒が解消されたり改善されたりした数は、昨年度より増えております。ご家庭や学校や関係機関の方々の働きかけとまた本人の努力で解消されたり改善されたりしてきておりますが、病気やその他の原因による長期欠席の減少数よりも、不登校の増加数が多いのが現実としてあります。

特にコロナ禍にあったこの令和2年度は、小学校六年から中一への進学の際に、不登校数が3倍となるというような状況もありまして、節目の大切な時期に休校等による不安定な生活が原因しているのかもしれない。

続いて、6ページ目をご覧くださいと思います。

これは今年度の上半期の長期欠席児童生徒の状況を表しております。

4月1日から9月30日までで、登校日数のほぼ半分が過ぎます。この間に30日を超える長期欠席児童生徒がどれだけいるかという調査をしました。

1番目の表になりますが、小学校が不登校50名、中学校が89名、合計139名です。昨年のこの時期は94名だったんですが、それと大きな差があるわけですけれども、1番の表の

後の※印のところに書いておきましたが、昨年度は5月24日まで学校はコロナ休校が行われていて、大体2カ月ほどのお休みがあったわけです。これがあつたがために学校を休まずに済んだというか、そういった部分も含めれば、この時期の令和2年度は特別に人数がおさえられたと考えます。

2番目の【参考】のところを見ていただきますと、四角の中に、1とか(5)とかありますけれど、これはそれぞれの年度の同時期の不登校生の数が書かれています。括弧の中が、その学年の年度末の不登校者数を表しています。

これを見ていただくと、令和2年度の一番右側のところに94とありますが、令和2年度は94名この時期に休んでいたと、だけれども、その2年度の終わりのときには182名になっていたということです。倍近い感じになっているということで、やはり令和2年度は特別な年だったというふうに思います。その下の令和元年度や平成30年度は2倍になっていることはありません。

2番目の表からわかることは、学年別になっていますので、昨年末の小学校六年の不登校児童生徒数と今年度進級して中学一年生になった上半期時点での数を比べることができます。つまり、中一ギャップがあつたかどうかを見ることができます。

令和2年度末は小六の不登校生は11名、その子たちが中一に上がって上半期の今年の数には14名で増加はあるんですけども、他の学年と比べて飛び抜けて多いということはございません。例えば、今年の小五は去年に比べてプラス6、今年の小六はプラス2、そして中一はプラス3、そして中二はマイナス4、中三はマイナス3というふうに。なので、中一ギャップが飛び抜けて今年起こつたかという、そうではないというふうに解釈できます。

3番目の表ですけれども、上半期の不登校児童生徒の90日以上欠席した人数を示しています。合計23名でございます。

4番目の表ですけれども、長期欠席やその傾向がある児童生徒の居場所や相談場所を示したものです。これは飯田市だけでとつた統計ですけれども、左半分が継続的に利用した者、右側が単発の利用者です。

民間の施設の継続利用者が14名ということですが、ちょっとこれはまた注目していきたいなと思っております。

90日以上長期欠席の児童生徒が既に23名ということですが、こういった子供たちの居場所や学習補償のあり方も検討していく上で、こういった民間施設の利用を視野に入れたり、教室以外でリモート授業等を受けることができるような児童生徒については、積極的にこういったものの利用を進めていきたいなと思っております。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、説明がありました。ご質問ご意見等あればお願いします。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） この不登校という問題は私には解決の方法はまったくわかりませんが、一会社の社長として今、やっている中でお話を申し上げると、もう社会人として立派に成人されている方でも、不出社というのがもう既に起きています。当事者に当る社長さんが家庭訪問されてます。

これは、そのときにその社長さんとお話したときに言っていたのが、親が子供の尻叩かないんですね。もう大人になってからでも。なのでどうしようもないっていう話を正直しています。もう 25～26 になって大の大人が会社へ行きたくない。それを親が何も言わない。というのが今の社会で起きてる現象です。だからそれは結果として、そういう人を産んでいるということだけは、ご理解いただきたいなというふうに思います。

ただ、子供たちが学校に行きたくない理由がたくさんあるでしょうけれども、これなんとかしないと社会的損失が相当なものだというふうに理解をしていただきたいなと。

ただ単にこういう現象が起きていることの問題ではなくて、相当な損失があるということです。それらをまた失業者として世に送り出してしまうと、社会のコストはどんどん増えていく。でも労働者人口はどんどん減っていくということにつながっているんだということだけは改めてご認識いただきたいというふうに思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） さっきの協議会のほうでも教えていただいたことと、ここの数値も一致しているなあというふうに思うわけですが、1 番最後の 6 ページのところの上半期のところのまとめの 2 番のところ。そこの不登校のところを見ると、今年もこの状況で見えていくと、小六から中一のところでは、中一ギャップはほとんどありません。去年の六年生が卒業段階で 11 人ですね。それが今年、中一になって 14 人ということですよ。今、段階 3 人増えているという状況ですけど、これが大幅に増えたという数字ではないので中一ギャップということまでにはいかない。ところが中一から中二の間のところはどうなんですかね。中一終了時が令和 2 年のところ括弧の 44 人だった人が、今現在、中二は 40 人って

ということですかね。

そうすると、これもそんなに増えたとは言えないということに受け止められるんだけど、でもこの同じ年度の中でいくと、この中一と中二のところだけ人数が違うっていうこと、先ほども三尾統括から話があって、「中一から中二の間に非常に不登校の子が増えるんです」っていう説明があったと思うんですけど、今年もこの上半期を見ていくと、中一の今段階が14人なのに、中二だと40人いるっていうことと、中一から中二の間のところは本当に要注意期間というか、これは前からあった傾向だというふうに自分は認識しているんですけど、改めてこれだけのことがわかっているのですから、中学一年生のこの辺の時期からの、学校での生活のさせ方というか、子供たち同士のあり方とか、そういうようなところで何か手を打てないのか、ただ「数が増えています」というだけのことではないんじゃないか。子供たちの発達の段階と、中一のこの時期の因果関係があるのではないかということ、各学校でもフォローして見てかないと、毎年「こうなってます」って言ってしまっただけではいけないのではないかと思います。

それで中三になると今までもずっとそうですけれども、減るんですよ。なおかつ高校に行くと長野県の高校生の不登校率っていうのは全国で比べてもかなり低いんですよ。今日いただいた1ページの上の四角の中にもそのことが丸の2番に書かれていて、さっきコロナ禍のことがあったから小中学校の不登校増えましたとの説明でしたが、県もこの説明をどうつけるつもりかわからないですけど、丸の2番に高等学校は98人減っているんですよ。同じコロナ禍の状況だったと思うんですけど、その中で高校生のほうは、逆に不登校の数が98人も減っているっていうこの状況は、どういうふうに理解したら良いんでしょうか。もしわかれば教えていただきたいということです。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

三尾統括、いかがですか。

○教育支援指導主事（三尾利彦） 小六から中一のギャップっていうのは、いわゆる環境が変わって既に連休明け辺りから出ている。だから上半期を見ればわかります。中一から中二は環境は変わらないので中だるみかもしれませんが、それはむしろ後半に出てくるのかなあという気もいたします。

それともう1つ、高校のほうですけども、高校が最近、高校は改革をしてきて、いわゆる不登校の子供やあるいは感受性の強い子供、そういった子供、あるいは特別支援の配慮が必要なお子さん、そういった子供を大分受け入れるような形になってきて、非常に学校の規則に合わせた形で子供を受け入れるわけではなくて、子供に合わせてきているという部分も

あるのかもしれませんが。そういった形に変わってきているなと思います。

それと同時に子供たちのやりたい学習、いろいろな学科が細分化して、地域に溶け込んで地域と一緒に社会のことを考えて行こうとか、そういったことも子供の興味に合わせた形で学習できるのが原因かなと思います。

義務教育でもそんな形を参考にしていかなければと思います。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 発達の時期があって、中学生くらいまでの間に本当に本人も迷い迷いの自分探しをしながら、今はちょっと外に出るエネルギーが湧かないっていう状況のところを上手に渡してあげると、それを経過してある程度目標が持てたり、自己理解が進んで「自分はこういうところなら頑張れる」とか、こういうものに何か自分の良さが見い出せるというようなことがもうちょっと付いていくと、中三なんかまさにその次の進路の目標が少し見えている段階なので、それに向かって頑張らねばという思いもあって、中三の二学期くらいから、かなり出てこれるようなお子さんが多いというのは承知しているのですが、その延長で高校生になっても今、三尾統括が話されたようなことがうんとあるんだとすれば、悩むときに悩みにはぶつかるけれど、そのところをもうちょっと上手に見守って渡してあげれば、高校生くらいまでのところには改善しているっていうふうを受け止めれば、「今、悩みのつぼにいるんだな」という受け止めもあるとは思いますが。

ただ、そうではあるけど、学べるときにはある程度学ぶ機会もちゃんとないと、身につけるべきことが身につけていないがために、自分が次に踏み出そうと思っても踏み出すことができないというようなこともあるので、この中二の辺で多くなってしまうのを、ある意味未然に防止するというような取り組みもどうしても必要だということも一方では思います。すぐに解決がどうっていうことではないのですが、みんなで本気で考えて、いつも注意していきたいことだなっていうふうに思います。

◇教育委員（野澤稔弘） ちょっとその件で。

○教育長（代田昭久） 野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 私の意見で、全然的を得てないかもしれませんが、小中っていうのは、確かに環境変わりますけど、ふるい分けはされないですね。ですけど、中学校に入ってくると、自己のポジションっていうのを高校に向けての、受験に向けてのポジションっていうのはだんだんだんだん自覚していく時期だと思うんですね。

これは一年生のときは、そんなにはしてないんですけど、やっぱり二年、三年となってくると、自分のポジションも自我も出てきますからきちっと見ていく。そのときに、いろんな感情が湧き上げてくると、それが私たちの世代っていうのは、もう外に発散するのでいわ

ゆる非行に走ったわけですね。もう夜の街に出て行って大騒ぎしたりとか、そういう時期だったと思います、私たちは。ただ今の子供たちはそうではなくて、それはもう学校に行きたくないという表現の仕方をされている可能性があるなというふうに私は感じています。ですので、中三になってくるともうある分、「しょうがねえな」という感じで出てくると、そんな感じじゃないかなと思われま。

やっぱり、そのだんだんだんだん自分の社会的なポジションっていうか、学校の中でのポジションっていうのを思ったときに、多分その悲しさとか悔しさとかそういったものが出てくるんじゃないかなというふうに私は感じます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） ちょうど中学校二年生についての話が出ましたので、こんな言葉を聞いたことがありますでしょうか、中二病っていう。中二病っていうのは、子供たちの間でも「お前、中二病だな」とか言うんです。中二病っていうのは何ていうんでしょうか。独特な感じなんですけど、思春期で何か心の中にいろんな闇を持ってしまうっていうか、それでこういろいろちょっと屈折してしまう言葉を言ったりとか、そういう不安定な状態の子を見ると、「あの人中二病だよな」とか「中二病が続いているんじゃない」とかっていう、そういう感じで使われるんですけど、すごくそういう時期なのが中二っていう時期なんだと思います。

思春期でもやもやしたもの、それこそ野澤委員が言ったように非行に走るみたいに発散することは、今の子供たちはそういうふうには向かわないんだけど、胸の中で本当にいろんな思いがあって、どうしたら良いのかわからないっていうようなものを抱えていて、それを語る大人なり、友達なりっていうのが、本当はすごく求めている時期なんじゃないかなというふうに思います。

三年生になるとそれが落ち着いてくるっていうのは、実際、なんかホルモンバランスの影響もあるなんていうふうにも聞いたこともありますので、そういった思春期特有のそういった時期っていうものは考慮に入れて、そこのそういう子供の発達段階にちょうどいい感じで先生なり大人が語りかけができるように響いていくんじゃないかなというふうには常々感じているところです。

それから、もう1つ高校に行って不登校が少ないということについてはですけども、高校は割と選択肢もあって、私の知っているケースでも、不登校になった場合結構すぐに学校を辞めて、通信制に切り替えたりっていうケースを何件か見たことがあるので、実は不登校にならなくて、学校を退学してその通信制に切り替えているというケースもあるがために、そ

の義務教育とは違う不登校の数という感じになっているんじゃないかというふうに思うことがあります。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにいかがですか。

三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） そういった中二とか思春期の中二病っていうお言葉を聞いて、そういうことがあるんだなと思って聞いておりましたけれども、思春期のときのいろいろな体調に関しては、本当に独特なものと言えば、起立性低血圧みたいなものがあるって、本当に怠けた不登校っていうふうに思われがちだけれども、そういった症状が出る場合や発達障害があっても通常の学習についていけない。そういう場合や経済的な理由や家族関係がいろいろあり、社会背景、家族背景が様々になってきているので、子供たちのそういった背景を考えると、一言に不登校といっても原因はいろいろあるんだなということは本当感じるところです。

飯田市の不登校に対する対応っていうものに関しては、そういったところに本当細かく手が入っていて、一人一人個別に、これも学校訪問でいろいろな学校の校長先生、教頭先生からお話を伺う中で、本当に個別に個別に寄り添って、その子のことを理解していくということで、寄り添っていただいている姿のご報告をいただいています。

そう考えると本当にそういったその子に合った方法で寄り添って、一言に不登校といってもその背景が様々であるということ考えた対応っていうものが必要ですし、それをやっていただいていると私は思っております。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

本当に難しい問題だと思いますので、これも継続してまたご議論いただきたいなというふうに思います。

（４）筑波大学アスレチックデパートメントと連携した取組みについて

○教育長（代田昭久） それでは続いて、「筑波大学アスレチックデパートメントと連携した取組みについて」をお願いします。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料No.4、ページは7ページになります。

筑波大学アスレチックデパートメントと連携した取組みということで、10月の定例会の協議会の中で、協定締結の背景、具体的な協定の内容、それに合わせて合同記者会見をすると

いうことで説明をさせていただいております。

本日の資料でいきますと、3番のそれぞれお互いどんなことを求めるのかっていう辺りまでの概要について前回の協議会の中で説明をさせていただいております。

10月に記者会見を行いながら、その後の打ち合わせ、リモートも含めて打ち合わせを行う中で、さらに具体的な取り組み、4点ほどございますが、確認してこれから取り組んでいくという内容について説明をさせていただきます。

7ページの下(1)でありますけれども、「ジブン・チャレンジ期間」の特別授業としまして、生徒が具体的な目標や行動計画を立てて、自分のやりたいことや伸ばしたいことに主体的にチャレンジできることを応援するという内容としまして、「ジブンチャレンジ期間」の目的、これについては学校からも説明をしながら、自分の中でどんな目標を立てて、どんなアクションプランを持って取り組むか。そういったものを1時間の授業を使う中で動機付け、助言をいただくということで、内容としまして、当然この取り組みの振り返りというのも学校によって違いはあるかと思いますが、特別活動などでそういう時間を取っていくということで、実際の授業の中では、タブレットやワークシート、そういったものを活用していくということでございます。

おめくりいただいて、8ページをお願いいたします。

この取り組みにつきましては、最終的には成果の検証をしていきたいということで、部活動アンケートの中で、こういった取り組みをやった学校とやらなかった学校、そういった違いも項目を立てながら検証をしていくということを確認しております。

3番に実施校ということで記載をしてありますが、既に今週9日、本日も行っておりますが、実際にここにある3校でこういった授業を実施しております。

次は2点目でございますけれども、「指導者を対象にした研修会」ということで対象につきましては、学校の校長先生、また全市型と一緒に取り組んでいただいておりますスポーツ協会の各競技団体の皆さん、それから下伊那の体育研究会ということで、体育に関わる先生方、そういった皆さんを対象にしたもので、内容につきましては、例えば休日部活動の地域移行、そういった国の動向であるとかスポーツの持つ教育的な意味、そういったものと合わせまして、実態としては、子供のやる気、主体性を引き出し、生徒が自ら課題を見つけて成長する、そういった指導方法などについて講演会、これリモートになると思いますけれども実施をしていくという予定でございます。

3つ目が現場の指導者の皆さんを対象にした研修会ということで、これは学校部活動の顧問の先生、また全市型の指導者を含めてですけれども、これについては具体的なワークショ

ップ形式で、指導者の方が自ら考えながら自分に落とし込んでいただいているような、そういうものを今できないかということで相談をしております。

部活動については、来年、新しい生徒が入ってまいりますので、その時期、来年の4月くらいまでには、こういったことができないかということで今、相談中でございます。

4点目が動画による情報発信ということで、これは12月に予定をしておりますが、筑波大学のほうの広報担当の方に来ていただいて、実際に全市型の現場で参加している生徒、指導者、保護者、そういった皆さんの取材をしながら映像としてまとめてもらうということで、予定をしております。

具体的には12月の第1週くらいになるかなあというふうに考えておりますけれども、そういう中で、5月にも競技団体の皆さんと一緒に話をしましたが、生徒の背中を押す1つのきっかけになるのかなあというふうに考えておりますので、今現状、まだまとまっていない部分もございますが、具体的にはこういった取り組みを既にしておるものもありますし、今後計画しているということで報告をさせていただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの報告ありました。ご意見いただければと思います。よろしく願いいたします。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今ご説明いただいて、とってもありがたいなあと思います。

今のお話の中で、例えば8ページのところで、授業も向こうでやってくださった、これを受けた学校の子たちと、それから今年は残念ながら受ける機会がないお子さんたちと、アンケートの中でも比較してみたいというようなお話がありました。

ある意味、科学的に、客観的データをきちっと揃えながら今後も進めて行こうっていう部分でとても興味があります。やっぱり動機付けをきちっとして、自分の目標を持ってこの「ジブン チャレンジ期間」に入っている子たちと、学校ではもちろんやってくださってるし、これからもやると思うんですけど、学校だけでやったのと、このアスレチック部門がやってくれたのとの比較で、もし効果があれば来年以降、そのノウハウを各学校で活用させてもらえればいいので、そこのところを比較しながら見ていくという構想はとっても有り難いと思いました。

それから、指導者向けの研修っていうところも、大事なことだと思います。

これも今まで発言させてもらったり、校長会等でも話させてもらったりしてきたことですが、部活動の指導を巡って、子供の人権侵害とか、暴言とかというようなことで、子供を

傷つけて結局、スポーツからは遠ざかってしまったというような事例を、新聞報道等で構
目にするところなので、改めて指導のあり方を学ぶ機会をとっていただくのはありがたいな
と。

それから1番最後のところですけど、5月のスポーツ団体と校長先生方との話し合いのと
きに、「どうしても、その一歩目を踏み出させる、その踏み出すきっかけがなかなかつけれ
ないですね」という話があったとき、例えば動画で呼びかけるとか、体験を語らせると
かと幾つかアイデアがあった。それを早速こうやって実践していただい。これも本当に迅速
な取りかかりをしていただいありがたいなというふうに思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにいかがですか。

上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） ほぼ北澤職務代理者と同じ意見です。本当にありがたいなと思
います。

そして筑波大学の先生方の科学的なデータに基づいたところでも、すごく説得力
がありますし、ぜひ子供たちに伝わってってもらいたいというふうに願います。

ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 同意見ですが、こういう連携をしていただいけるというのは本当
にありがたい話かなと思います。

これは、スポーツに限らず、アスレチックなので、例えば歩き方とか、そういう生活の基
本動作みたいなところも、かなり日本人は歩き方がへばいという話をよく聞きますので、そ
んなこともやっても良いのかなと感じました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

これ始まったところですので、またご報告をさせていただきたいと思
います。

私も時間ない中ですが、竜東中学校に見に行きました。内容は今報告したとお
りな
んですが、これはおもしろいなと思ったのは、授業が終わった後、ちょうど6時
間目だったので、「もう少し良いですよ」と言ったら、やっぱり二年生が手を
挙げて、「私は試合のときにピンチになると緊張しちゃってうまくできない
んですよ」と「こういうのはどうやっていったら良いんですか」、本当に
後から聞いたら切実に、それでこの新人戦大会負けちゃった子だ
ったらしいんですよ。そうしたときに、一般論としてはそういうスキルを
やっぱり

身につけていかなきゃいけないんだけど、オーソドックスな指導としては、「呼吸ですよ」と「呼吸が高まっているので、ゆっくり息を吐いて姿勢を整える。これで随分違うと思います」、「ありがとうございました」ってですね。本当にスポーツ指導をしている人たちからすれば当たり前なんだけど、「ああ、こういうやり取りも大事だな」なんていうふうに思いながらそんな機会をつくっていきたいなと思いました。

はい、いろいろなご意見ありがとうございました。

今日、協議事項、本当に4つ充実したご発言いただき深まったと思います。ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続いて日程第8、「陳情審議」。今月の陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9、「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 「教育委員報告事項」、それぞれの委員さんから報告事項あればお願いします。

はい、上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 教育長も春草の話をしていましたが、春草展、大変素晴らしいもので感激しました。友人知人に伝えて10人以上の人が周りでも行きましたし、カフェでお茶をしていると隣の人たちが春草展について語り合っていたりという感じで、あとやはり学芸員の皆さんが長年にわたって春草を研究していたという、そういったつながりがあってこそ今回の企画展であったということを聞きました。

私が1番素晴らしいなって思って学芸員さんたちに伝えていただきたいと思ったのは、キャプションといわれているものが本当に洗練されていたことです。キャプションが本当に多くなくて、初めて見た人でもスッと入ってくるようなキャプションでした。それはきっと長年ずっと積み重ねられた研究の上で、本当に洗練された言葉として出てきたんだなというふうに思いましたので、それに大変感動しました。

ありがとうございました。お疲れ様でした。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにかがででしょうか。

北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今、上河内委員が言われましたけれど、春草展も2度行かせていただいて、本当に味あわせていただいたなっていうことを思います。

それから、引き続き今月、確か「現代の創造展」もありますよね。今年で22回目くらいですかね。これも例年ずっと楽しみにほぼ毎回見させてもらっているんで、今年もまたあの方がどんな作品を出しているのかなあとか、とても楽しみにしているところです。期待をしていますのでよろしくお願いをします。

あと全く別件でちょうど昨日ですけど、県の市町村教委連絡協議会の代議員会と役員会に行かせてもらってきました。長野市です。

その中で、前、教育長からもあった、どうしても講師の数が不足しているっていうような話のところで、教員採用試験を受ける方の数も減って倍率も下がっているとか、倍率が下がるということは教員の質の低下につながるっていうような話のところだったんですが、県の教委連のほうでも、テレビ局に働きかけて、教員は何でもブラックな環境だっていうようなイメージが付いてしまっているから、学生さんが受けてくれないとかということがある。「教員の仕事は良いもんだなあ」ということを知ってもらうための番組を、城山小学校の初任者の先生に張り付きで撮った番組を流すという話もあって、明るい面からPRしていくというような話がありました。

それから来年、全県の教育委員の研修会は佐久市で行う。コロナ禍が今程度で行けば全員集まってのことを考えていきたい。いずれ正式な通知が来るとは思いますが、5つの分散会での発表の1つを飯田市が、南信地区の回り番でいくと飯田市が来年は当りますということがわかっています。

それからあと非常に話題になったのは、部活動改革がなかなか進まないっていうのを何人もの教育長さんが悩みとして語っておられました。

それから不登校対策に絡むこととして、特別支援教育の視点での力を先生方が身につけていくことはとっても大事だなっていうようなことが意見交換としてされていました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 春草展、私も2回ほど学生と一緒に見に行かせていただいています。

事前勉強をして行ったんですけども、学生からも「わー大きい」とか「立派だ」ってい

うことで、本当、さっと見るというよりはコロナ禍で人数制限もあったということもありま
すけれども、じっくりと本当に絵の前で何分も戻ってこない学生がいたりとか、じっくり見
させていただきました。

そんな学生との感想をいろいろ話す中で、ちょっと資料がなくて言葉が違うんですけど
も、菱田春草の言った言葉に「古いものをきちんと学ぶ」ということ、そして「今、目
前にある新しいものをきちんと捉える」ということ、そして3番目に大切なのが「そこから
オリジナリティーが生まれてくるんだ」とそんなような言葉があったかと思うんです。なん
か学生もそこにすごく共感したようでして、「やはりオリジナリティーというものを生むの
には昔あったものをきちんと捉えて、そして目の前にあったことをきちんと押さえて、そし
て新しいものなんだな」という感想もありまして、本当に様々なことを学ばせていただい
たなどそのように思っております。

もう1つ先人のことで学ばせていただいたと言いますと、この間の11月7日にあれは市
民大学といった言葉で良かったのでしょうか。「博覧男爵」、田中芳男先生のこと小説家の
志川節子先生が「博覧男爵」書かれたということでその先生の講演を、これも学生と一緒に
聞きに行かせていただいております。

今、「晴天を衝け」で明治維新の時代がとてもいきいきと描かれていますけれども、本当、
そんな時代に生きた私たちの先人、話の中には本当に大久保利通も出てきましたし、五代友
厚も出てきましたし、岩倉具視も出てきましたという、そんな本当に名前を知る人たちの中
に、自分のこの地域で生まれた先人がこの明治を改革していったんだな、なんていうと
ころ、本当に誇らしく話を聞かせていただきました。

学生も「すごい人がいたんだね」というような話の感想をしながら一緒に帰ってまいり
ました。たくさんのことを学ばせていただいております。ありがとうございます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

また引き続きよろしく申し上げます。

（2）参与報告事項

○教育長（代田昭久） それでは「参与報告事項」。

◎参与（松下 徹） 特にございませぬ。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） 「学校教育課報告事項」をお願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、特にございません。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」をお願いします。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 資料9ページ、資料No.5番をお願いいたします。

10月の定例教育委員会の中で「わが家の結いタイム」の三行詩コンクールの審査をお願いしてご協力いただきましてありがとうございました。

その結果を1番に、それぞれの部門ごとの応募数と入賞作品ということで整理をさせていただきます。

おめくりいただいた10ページ・11ページにそれぞれ4つの部門の特選・入選・佳作ということで、それぞれの部門、特選1点、入選3点、佳作5点ということで投票の結果でこういうふうにまとめをさせていただきましたのでまたご覧いただければと思います。

この入賞の皆さんには学校を通して賞状を贈らせていただきます。

また、この作品については、ポスター形式でまとめてウェブサイト等この「結いタイム」の周知活動のPRに使っていくということで、またそういう活用をしてみたいと思いますので報告をさせていただきます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「文化財保護活用課関係報告事項」をお願いします。

馬場課長、お願いします。

◎文化財保護活用課長（馬場保之） お手元のほうに「黒田大明神原B遺跡」の発掘調査現地説明会開催、ほかのチラシをお配りしましたのでよろしくをお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「公民館関係報告事項」をお願いします。

◎公民館副館長（秦野高彦） それでは、12ページをご覧ください。

飯田市の成人式についての報告をさせていただきたいと思います。

令和3年度の飯田市の成人式でございますけれども、令和4年1月9日の日曜日に開催をする予定でございます。

コロナ禍における開催ということでございますので、様々な感染症対策を行いながらこの地域の出身者である成人の皆さん、今後の担い手をお祝いする機会を設けていきたいというふうに思っております。

通常の感染予防対策に加えまして、成人式に参加する新成人全員の抗原定量検査ですとか、式直前でなければ帰省できない新成人の予定者につきましては、居住地での検査機関での抗原定量検査もしくはPCR検査を行っていただくことに対する補助、さらには南信州圏域外に在住の出席予定者につきましては、簡易検査キットをお送りいたしまして、健康管理をしていただくなど様々な感染症対策を行いまして開催をしていきたいと思っております。

次世代の担い手を地域を挙げてお祝いをできるように進めておりますので、ご報告をさせていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「文化会館関係報告事項」をお願いします。

下井館長、お願いします。

◎文化会館館長（下井善彦） それでは、3点お願いいたします。

まずは、今お手元に赤いチラシをお配りいたしました。コンサート・ア・ラ・カルトのクリスマスコンサートが予定されているということでご案内を申し上げます。

2点目ですけれども、オケ友の関連事業です。先日11月6日ですけれども、5月にできなかった名フィルのコンサートということで、名フィルオーケストラセレクションが開催され、ほぼ満席ということでございました。

それから3点目でありますけれども、来年度のご案内です。

来年度の6月にスキマスイッチのコンサートを予定しております。これは若者を対象ということで、若者の皆さんが実行委員を組んでいただいているということになっております。もう12月から実行委員会がスタートしますので、その実行委員の募集ということで、これはあまり期間がありませんが、12月10日まで募集しているということでございます。飯田下伊那在住の18歳以上の方ということでございますので、ご案内を申し上げます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（８）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて、「図書館関係報告事項」をお願いします。

瀧本図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いいたします。

資料No.7、最後の紙になります。

よむとす事業の報告及び予定ということで、読書推進事業についてご報告と予定です。

今日お配りさせていただいた中に「よむリス」というリストの三年生用と四年生用がございますけれども、図書館では子供の発達に沿って乳幼児から幼児、小学生、中学生と読書活動の推進を行っております中で、こちらは小学生の読書の推進の取組です。小学生の読書では読み聞かせはしてもらっているのだけれども、自分からなかなか文字の本を読み進めることができないということが課題の1つになっています。

先ほどお話しにありましたように、文章を読んで頭の中で絵をイメージし、文章から意味を読み取る力をつけるということが、とても大切なことだということで、学校図書館の司書の皆さんと市の図書館が共同で、学年ごとにそれぞれ段階を経て読む力をつけていくことができるようなリストをつくるということで取り組んでおります。各学校と市の図書館でこれから活用に向けて取組を進めていきます。

予定につきましては、下に3点記載してございますのでご覧ください。

説明は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（９）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

久保敷副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） 資料はございませんが、先ほど来、話題にしていただいております、菱田春草没後110年特別展につきましては、皆様にご協力いただいて多くの方にご来館いただくことができました。大変ありがとうございました。

内容については、教育長報告のほうで報告させていただいておりますので、今後はまたこの事業を検証してこれからの事業につなげていきたいなというふうに考えております。

またご意見等あれば申し出いただければというふうに思います。

本日、お手元には11月のびはくにゅーす、上旬は終わってしまい遅れておりますがお配りさせていただいております。今後も事業を展開してまいりますので、お時間があればご参加いただければというふうに思います。

よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「歴史研究所関係報告事項」お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） 特にございませぬ。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま学校教育課から歴史研究所まで報告事項がございました。関連して質問意見等あればお願いいたします。

野澤委員、お願いいたします。

◇教育委員（野澤稔弘） 私、兼々成人式というものに反対の人間なんですけれども、この行事、成人式そのものっていうものを見直すようなことというのは考えられないんでしょうか。

私としては、何でこんなことをするのが全然理解できません。自分の成人のときからずっと思ってます。ですから、私も成人式は出ていません。何でこんなことをするのだろうという、存在価値が全然わからないので、ここに税金を投入すること自体が何か不毛のような気がするんですが、いかがでしょうか。

何かそういうことを考える場っていうのはあるんですか。

○教育長（代田昭久） はい、秦野副館長、お願いします。

◎公民館副館長（秦野高彦） 私どもの成人式というものは、改めてここに関わっていただく成人に単に地区に集まるということではなくて、自分たちの地域を学んで自覚をしていただく、そういうことを目的に公民館が担当をさせていただいています。

なので、その半年前から成人式の各地区で実行委員会を組まさせていただいて、新成人の皆さんと自分たちの地域を学んだりとか、自分たちの自分探しという形にもなるのかもしれませんが、そういうような学びを通して成人への自覚を育んでもらう。そういうような組み立てになっております。

もちろん全員の方が参加できるということではないんです。その実行委員会に参加されるということではないんですけれども、私ども公民館がこの成人式を行うに当っては、そのよ

うな成人式として、成人として育っていただきたいという、そういう願いを込めてつくり上げてきております。

ここの目的に書いてございますけれども、単に式に集まって「おめでとう」っていうそういう形で作られているものではありませんで、この①番の新成人が成人として自覚を持つ機会というようなものも、その自分たちの仲間が学んできたものを一緒に共有する機会、そんなような形で自覚を持つ機会にしていると。

②番は地域でつながりを持つ機会というのは、実行委員会の単なる成人の皆さんだけがやっているわけではなくて、地域の公民館の委員ですとか、まちづくり委員会の皆さんとか、そういう皆さんと一緒に実行委員会を組んでおりまして、大人とともに作り上げていくというような形を持っておりまして、まさにその場で地域につながりを持つ場というような機会を設けているということです。

最後に地域で新成人の門出を祝うということで、地域の担い手、この国の担い手として、門出を祝うとそういうような3つの目的を持って行っておりまして、みんなが集まって成人式で祝辞を聞いてっていう、そういう流れのものでは私どもの公民館が主管をして行っているものについてはやっていないと言いますか、それはそういう形で行っているということでありますので、私どもはこの成人の皆さんが私どもの地域をぜひ誇りに思うような、そういうような学習活動の集大成として成人式を位置付けているという形になっております。

○教育長（代田昭久） 野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） であれば、着飾る必要はないですよ。そういう理由であれば着飾る必要はないですよ。

自覚ないですよ。だから私は反対です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

意見として受け止めながら、今年度、教育委員の皆さんも行ける可能性があるのかな。

◎公民館副館長（秦野高彦） 検討させていただきたいと思います。

○教育長（代田昭久） ぜひ、飯田なりの成人式を見ていただければ良いのかなというふうに思いますので、またよろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

(11) 今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてお願いします。

櫻井係長、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 次第の3ページをお願いいたします。

今後の日程につきまして、明日11月12日、最後の学校訪問、遠山方面でございます。戻りましたらりんご並木収穫祭がございますので、こちらにもご出席いただけたらと思います。

次回の教育委員会定例会は12月14日でございますので、よろしくをお願いいたします。

また、校長会、教頭会が予定されております。北澤職務代理者はご出席をお願いします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

その他、ご発言がある方いらっしゃいますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは、日程第10、以上をもちまして、令和3年11月定例会を閉じさせていただきます。

本日もどうも、ありがとうございました。

閉 会 午後5時11分